

第4回 大阪府財務マネジメント委員会 議事概要

- 1 日 時： 平成24年2月2日（木）午後2時～3時45分
- 2 場 所： 東京八重洲ホール3階 301会議室
- 3 出席者： 梅田会長、江夏委員、小川委員、河村委員、須江委員、玉岡委員、浜田委員、室町委員、安田委員（敬称略）

4 議 題

- (1) 起債マネジメントについて
 - ・ 府債ポートフォリオの点検・管理
 - ・ 平成24年度大阪府債発行計画（案）
- (2) その他

5 主な議事概要

- 資料2 府税収入と金利との相関の点検、資料3 府債ポートフォリオの点検・管理について及び、資料4 平成24年度大阪府債発行計画（案）について、事務局説明後、各委員による意見交換及び質疑が行われました。委員の主な発言は以下のとおりです。

《府税収入と金利との相関の点検について》

- ・ 相関に関しては、1年だけの経過で大きな変化が無いのは当然のこと。
- ・ 例えば、資料2の6ページの左上の Libor との相関で、4%以上にある点二つが試算の対象期間から将来外れると、かなり相関係数、相関の値が変わってくると思われる。試算というのはあくまで試算で、期間の取り方によって結果が違ってくるので、多角的な検証が必要。
- ・ 平成24年度の変動金利割合の上限10%を継続していくという考え方、方針を当面継続していくことに、特に問題はない。

《府債ポートフォリオの点検・管理について》

- ・ 今回の取組（2年債の導入等）を検証すると、利払いの削減効果を得ながら（委員試算で約1億5千万円）、20年債の効果で平均調達期間が短くなっておらず若干伸びており、バランスのとれた発行がなされたと考える。
- ・ 平均残存期間だけでは、先行きに抱えるリスクは測れない。市場環境の不透明さを考えると、償還の山と谷を押さえ、実際のリファイナンスが各年度にどの程度の金額、比率で必要かというリファイナンスリスクにも注意を払い管理した方がいい。
- ・ あるべき平均残存期間というのは難しい問題。発行体として望ましい調達期間があったとしても、市場で安定的に調達できる年限（10年）があり、その両方をおさえて対応していくべき。また、ALM（Asset Liability Management）の観点から、資産と負債のバランスの中で最適期間を検討するのも一つの考え。

《24年度府債発行計画（案）について》

- 発行計画については、年限のバランスが取れており、特に問題はなく妥当と考える。
- 2年債の継続的な発行は、投資目線の形成、市場流動性の確保という観点からいいことだと考える。
- リファイナンス額の平準化という観点からも、フレックス枠を活用した投資家目線にあったより多様な調達（年限 11 年や 13 年など）は検討に値するもの。

《その他》

- 府民に対し、財務マネジメントでの取組み、効果をホームページ等でわかりやすく伝えていくべき。
- 償還に備えた減債基金の資金残高やその運用についても併せて、全体的なポートフォリオのマネジメントをすべき。

以上